

宮本茶園

雨の日以外は畑で野良仕事、賃金労働者時代にあこがれていた夢がかなって一年が過ぎました。猿にしか出会わない山奥で黙々と野良仕事をしていると、古い友人が遊びに来てくれる事がとても励みになります。3月下旬、吉田島農林高校（現吉田島高校）で担任をしていた教え子たちが佐野川を訪ねてくれ、4月にかながわ農業アカデミーへ入学し新規就農を目指す元生徒から進路相談を受けました。

農業を仕事にする夢を持つ若者に赤字経営農家の私が助言する資格は無いのですが、彼らに「食品流通」という科目を教えていた事を思い出し、久し振りに農業の楽しさを伝える教材準備と授業案を考えました。主な教材は佐野川茶製品販売のめぐりんずつくい・佐野川茶アイス製造のメグジェラート・宮本茶園、各所を案内しながら藤野茶業部佐野川茶の相模原ブランド構築や雑穀街道の世界農業遺産登録申請の取り組みを熱く語ってしまいました。彼らと別れた夜「20年ぶりの先生の課外授業、社会に出てからの目線で受けることができ、今日は本当に勉強になりました」とお礼のメールを受け取りました。神奈川県教育委員会に失職させられ学校とは無縁になった私ですが、今なお授業を真剣に受けてくれる教え子がいて案外幸せな教員人生を送っていたようです。



・春の茶仕事

毎年2月半ばに春肥作業が始まるので、茶園畝間へ有機資材を敷き詰める作業はその前に終わらせます。今春は地域で里山の環境保全活動に取り組んでいる「さっそくこう会」から落葉や耕作放棄された果樹園を整備して出た剪定枝のチップをいただき、4月上旬まで茶園に運びました。今年は統一地方選で相模原市長選挙があり、選挙運動期間中の出来事です。本村市長の奥様が上岩の作業現場に立ち寄り、会員との小集会になりました。「ここは美しい農村景観ですね」と話されたので、私は「ここに生活している農家が協力し合って里山を手入れし、毎日畑で野良仕事しているから美しい農村景観が守られているのです。SDGsに力を入れる本村市長には中山間地域の農家が安心して生活できる政治を期待しています」と思いを伝えまし

宮本透

た。

春の茶仕事は施肥・整枝と順調に進み、4月28日各茶園を巡って新芽の開葉数と長さを調べました。4月の佐野川は9日・10日遅霜がありましたが暖かな日が続き、新芽の生長が予想以上に進んでいます。例年連休明けから始まる茶葉摘採作業ですが5月1日開始を決めました。茶葉搬送用車両・人員手配、愛川工場受け入れ日程調整を事務局、藤野茶業部は作業人員確保と役割分担しましたが、2日間では準備不足は否めません。搬送車両・人員が手配できなかった日は軽トラ荷台にスノコ板を並べ茶葉の入った摘採袋を積み、自分で運転して愛川工場へ運びました。部員の高齢化と人手不足は深刻で、昨年に比べると一日の作業で摘採した茶葉重量は明らかに少なくなっています。佐野川茶の相模原ブランド構築には乗り越えなければいけない課題が山積している現実を受け止めました。ともあれ新茶製造に全力で取り組んでいますので、藤野茶業部への応援よろしくお願いいたします。



・野草の天ぷらとお茶摘みの会

コロナ禍ですっと中断していたINCH 伝統人気行事「野草の天ぷらとお茶摘みの会」、事務局が大学と交渉し若いスタッフが準備をして4月23日に開催する事ができました。私の担った準備といえば当日スタッフ集合時間に遅刻しないよう藤野駅発上り電車に乗り、国分寺駅から環境教育研究センターまで歩いただけです。久し振りに訪れた母校にはWBC日本代表を優勝に導いた栗山監督のお祝い幕が掲げられ、偉大な後輩の活躍を喜んで記念写真を撮ってしまうお気楽さです。学生時代栗山君が活躍していた野球場近くにあったプール門長屋部室、授業をサボってたむろした特殊教育研究部員は例外なく留年・退学した黒歴史を背負いました。部室で過ごした至福の時間、佐々木信也さん等プロ野球関係者をよく見かけた事、学大におき忘れた青春のかけらを思い出しました。

定員50名限定事前申し込みのお茶摘みはコロナ禍以前の賑わいはありませんでしたが、ずっと待ち望んでいた方も多く皆さん熱心で1時間に摘んだ新芽は約3kgありま

した。スタッフの贄田君やちえのわ部員がセイロやホイロを手際よく設置してくれ、私は職業科・技術科 15 人で 60kg の茶葉を摘んだ農場実習の辛い思い出話をしながら参加者に手もみ茶のコツを伝えました。額に汗をかきながらセイロで蒸した茶葉をホイロの上で揉む事 3 時間、700g の新茶が出来上がりました。今回は「飲食は無し」の開催で美味しいお茶の淹れ方は足柄茶リーフレットを配布し、自宅で試みるようお願いしました。

1985 年やほ耕作団で行った味噌仕込みから始まった春の INCH 恒例行事、小川君や岩谷さんが事務局員だった 90 年代に「野草の天ぷらとお茶摘みの会」となって今に至っています。後片付けをしている最中小川君と木俣師の話をしているとちえのわ 2 年生のスタッフから「木俣先生って誰ですか?」、二人で目を丸くして顔を見合わせ驚きました。定年間近の小川君、木俣師を知らない後輩、INCH 50 年の歴史を感じた瞬間でした!



・雑穀街道普及会の活動

1~3 月に開催された国際雑穀年記念オンラインイベント「つつつ雑穀パワーフェス」は全国から参加者が集い、新しい出会いがたくさんありました。4 月 20 日熊本県に住む音楽担当スタッフでオリジナル曲「草の結び」(雑穀の歌)を演奏した UpepoUpopo (うべぼうぼま) のお二人とトランジション・ジャパンの梶間さんが「雑穀街道ツアー」を企画、佐野川を訪ねてくださいました。国際雑穀年記念発泡酒ソビボ・ピーボ醸造打合せを兼ねて和田の Jazz Brewing Fujino を視察、山口さんから工房設備と醸造工程の説明を伺いました。ホップ委託栽培で長いお付き合いがある山口さんですが、工房に入ったのは初めてでとても勉強になりました。上岩に移動してゴエモン佐野川チームの醤油仕込みを紹介、宮本茶園を案内しました。楽しいツアーの様子はびりかカフェの動画「【雑穀街道の旅】藤野・小菅村」が YouTube にアップロードされていますので、ご視聴お願いいたします。

ソビボ・ピーボは学芸大学辟雍会通信 No.14 に「創基 150 周年を記念して復刻されます。キビの栽培や雑穀酒の醸造には本会会員が関わっています」と紹介されました。第 12 回自給農耕ゼミ(佐野川)は 5 月 21 日キビ播種・ホップ栽培棚作り等の実習を行います。今年は上岩雑穀畑だけでなく千木良のゴエモン活動や Jazz Brewing Fujino の発泡酒仕込み見学等、年間を通して雑穀街道各地域の取り組みも紹介できるよう準備しています。雑穀やホップを自分たちで栽培・収穫し、美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう



雑穀街道普及会の活動に興味ある方、宮本携帯 (090-2205-8476) へご連絡ください。